



## めがねをかけると、どうして見えるようになるの

### めがねをかけるのは

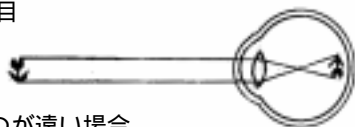
目には、水晶体があり、そこを光が通って、目のおくにある、網膜に像を結ぶため、物を見ることができるのです。水晶体は、だん力のある、凸レンズのような形をしています。毛様筋ののび縮みにより、水晶体の厚さは変わり、光の通り方を調節して、遠くのものでも、近くのものでも、見たものの像が、網膜にはっきりと映るようにしています。

しかし、近視や遠視になると、眼球の形が変わってしまい、水晶体の厚さを変えるだけでは、光の通り方を調節することができず、見たものを、網膜にはっきりと映し出すことができなくなります。そのため、めがねをかけて、光の通り方を調節するのです。

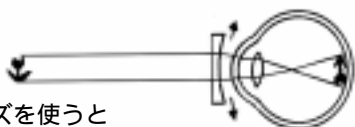
### 近視や遠視の、めがねをかけるとよく見えるのは

近視の人は、眼球のおくゆきが長いために、光の像が網膜の前の方で結び、見たものの形が網膜にはっきり映りません。また、遠視の人は、眼球のおくゆきが短いために、光の像が網膜の後の方で結び、見たものの形が網膜にはっきり映りません。めがねをかけると、よく見えるのは、めがねのレンズを使って、見たものの像をはっきり網膜に映し出すことができるからです。（監修・保志 宏）

近視の目

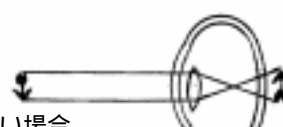


見るものが遠い場合  
網膜の前方で像を結ぶ

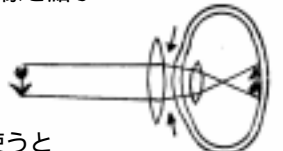


凹レンズを使うと  
網膜の上に像を結ぶ

遠視の目



見るものが近い場合  
網膜の後方で像を結ぶ



凸レンズを使うと  
網膜の上に像を結ぶ

